

体制転換期のスロヴェニアの銀行民営化について

高田公（和歌山大学）

中東欧諸国の銀行部門では、各国の国有銀行の民営化において外国金融投資家への売却方式が採用されたことにより、外資系銀行が銀行部門の大部分を占めるという共通の特徴がみられるようになった。他の中東欧諸国でも国有銀行は軒並み外国金融資本に売却され、中東欧地域は世界でも銀行部門における外資系銀行の支配がもっとも強い地域となっている。一方でスロヴェニアは例外的であり、外資系銀行の資産シェアが30%ほどと、中東欧諸国のなかで比べると一国のみ低い割合となっている。なぜ中東欧諸国の中でスロヴェニアのみが外資系銀行のシェアが低いのであろうか。本報告ではスロヴェニアの国有銀行の民営化の過程に焦点をあて、外資系銀行のシェアが低い原因を明らかにするとともに、さらにスロヴェニアの民営化過程に影響を与えた要因について検討する。